

International Space Science Institute : Radiation belt physics group meeting

国際宇宙科学連合：放射線帯物理研究グループ会議

開催期間：2020年1月27日～1月31日

開催地：スイス ベルン



京都大学大学院理学研究科
博士後期課程3年 生松 聡

この度は、貴公益財団法人宇宙科学振興会よりご支援を受けまして、International Space Science Instituteにより開催されました放射線帯物理研究グループのワークショップに参加させていただきました。ワークショップは2020年1月27日-1月31日の日程でスイス・ベルンにて開催され、世界各国より放射線帯物理に関連する研究者が集まりました。参加者は主に”Van Allen Probes”, “Arase”, “ProbaV”という3つの人工衛星ミッションに関連する研究者がメインでした。そこでそれぞれの人工衛星が観測した結果や、それ以外にも多くの観測データを統合し、新たな知見を生み出していくことが目的でした。

私は、日本が打ち上げた内部磁気圏探査衛星である”Arase”のミッションの一員として参加させていただきました。そして、Arase衛星・Van Allen Probes衛星・MMS衛星などの複数衛星によって観測された内部磁気圏におけるホイッスラーコーラス波動や粒子インジェクションに関する報告をしました。今までは地球磁気圏を飛翔する人工衛星は少なかったのですが、近年は複数の磁気圏探査衛星が運用されており、それらのデータを組み合わせることで空間的により稠密な観測ができるようになりました。特にArase衛星の観測により、現象の緯度方向の空間構造についての議論が可能になってきました。

また、本ワークショップはただ研究発表をするだけでなく、その場で各々考えているプロジェクトを公開し、そのプロジェクトを遂行するためにはどのようなデータが必要で、どのような進め方をしていけば良いかなどの議論を多く行いました。そして特定の現象に関して、その場で各々がデータを解析し、その時点で結果を報告し、議論も行いました。私は若手研究者枠の一人として参加させていただいたのですが、第一線で活躍する研究者がどのように研究対象を定め、どのようなアプローチで進めていくかを体感できたことは、若手研究者として大きな収穫であったと感じています。このようなハンズオン形式の実践的ワークショップも実施した結果、20を超える国際プロジェクトが発足し、私もそのうち2つに属し研究を進めていくことになりました。

本会議には、日本からは自分を含めてわずか2人しか参加しておらず、さらに5日間全員でみっちり発表・解析・議論を行うハードなワークショップでしたが、その分、自分のためになったことも多かったと思います。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださいました貴財団、そして関係者の皆様に深く感謝いたします。本会合にて得たことを活かし、今後の研究活動に尽力していきたいと思っております。



会場の写真